

サイエンスアゴラ 2008  
日本地球惑星科学連合主催

## 博士号取得者のキャリアパス支援の現状と課題

### ー博士のキャリアパスとは？ー

■開催日時：11月23日(日) 15:00-17:00

■開催場所：国際研究交流大学村 3F メディアホール(東京都お台場)

■タイムテーブル：

15:00-15:05 はじめに

(木村 学氏 日本地球惑星科学連合 運営会議議長/東京大学 大学院理学系研究科)

15:05-15:20 日本物理学会の取り組み 栗本 猛氏

「博士課程出身者のキャリアパスと日本物理学会の活動-- 博士人材の活用を目指して--」

15:20-15:35 日本化学連合の取り組み 井上 晴夫氏

「ひとの流れは変わるか？」

15:35-15:50 生物科学学会連合の取り組み 中野 明彦氏

「生物・生命系の取り組みー生物科学学会連合と学術会議生科分科会」

15:50-16:05 日本地球惑星科学連合の取り組み 高橋 幸弘氏

「日本地球惑星科学連合キャリアパス支援の現状について」

16:05-16:15 休憩

16:15-17:00 パネルディスカッション

登壇者：

原 辰彦氏(独立行政法人 建築研究所)

高橋 幸弘氏(東北大学 大学院理学研究科)

井上 晴夫氏(首都大学東京 都市環境学部)

栗本 猛氏(富山大学 理学部)

中野 明彦氏(東京大学 大学院理学系研究科/理研基幹研究所)

17:00 終了

会進行役：山田耕(早稲田大学大学院政治学研究科)

## ■はじめに

日本地球惑星科学連合は、地球惑星科学の博士号取得者が社会の多様な場で貢献・活躍できる環境を作るために、2009年1月にキャリア支援委員会を発足させました。それに先駆け、キックオフシンポジウムとして2008年11月23日(日)に東京お台場で行われたサイエンスアゴラ2008で本イベントを開催しました。大勢の学生、研究者、企業の方に参加していただき、様々な意見が出され、活発な議論が行われました。以下では、シンポジウムの内容を簡単に紹介いたします。

## ■シンポジウム開催目的

最近の科学分野におけるポストドク問題は、若手研究者の研究意欲減退、将来を担う若手研究者数の減少、日本からの頭脳流出等を引き起こしており、科学界全体の重要な問題です。本シンポジウムは、物理、化学、生物、地学分野を代表する学会・学会連合が一同に集まり、この問題の考え方や取り組みについて意見交換を行うことを目的に開催されました。

## ■各学会・学会連合の取り組み

各学会・学会連合ともに、ポストドク問題は将来の研究活動・レベルを落としてしまう原因となる重大な問題であると認識しています。その対策として、様々なキャリアパス支援活動やポストドクの実態調査活動に取り組んでいます。各学会・学会連合が行っているキャリアパス支援活動には次のようなものがあります。

- 企業と博士課程学生およびポストドクとのマッチング会の実施
- キャリアパスに関する講演会(企業内での博士号取得者のキャリアパスやポストドク問題に対する政策的な話など)の実施
- 博士課程学生やポストドクの育成に関する学会としての長期計画の構築
- 博士課程学生およびポストドク採用に関する企業へのアンケート調査

## ■博士号取得者が有する能力とは？

社会の多様な場で活躍するにあたり、博士号取得者はどのような能力を持っていると考えられているのでしょうか。シンポジウムでは、「本質的なことを見抜く力と問題解決能力」、「問題提案力」、「リーダーシップ」といった言葉がキーワードとして出されました。これらの能力は、研究を遂行する際にも必要ですが、一般社会・企業でも必要とされる能力です。博士号取得者は、すでにこのような能力を身につけていると考えられます。

## ■企業から見る博士号取得者の印象は？

博士号取得者を採用する企業もありますが、数は多くないのが現状です。博士号取得者を積極的に採用している企業でも、博士号取得者に対する評価は厳しい場合があります。シンポジウムで出てきた具体的な話としては、数年経つと博士号取得者と修士号取得者の

力の差が目立たなくなる、博士号取得者は、深い専門性があり、研究遂行や論文執筆は強いが、視野が狭く、テーマ変更への柔軟性、リーダーシップ、企画提案力が弱いという評価が紹介されました。

## ■問題は？

現状では企業と研究者コミュニティ間の活発な人材の移動は起きていません。その原因として、シンポジウムでは次の3点が挙げられました。

- 博士課程学生およびポスドクに対する社会・企業の偏った見方
- 大学教員の意識の問題：学生のキャリアパスに関心が低く、学生が多様なキャリアを考えられる環境を作っていない
- 博士課程学生およびポスドクの意識の問題：大学・研究機関以外のキャリアパスを考えない

従って、ポスドク問題に対応していくためには、キャリア支援活動を通じて、企業、大学教員、博士課程学生およびポスドクの意識改革を促す必要があります。また、高度な知的人材がより活躍できるような社会にするための政策的な提言なども必要になるでしょう。

## ■本シンポジウムを受けて

初めに述べましたように、2009年1月に日本地球惑星科学連合においてキャリア支援委員会が発足しました。キャリア支援委員会は、ポスドク問題や地球惑星科学研究者のキャリア支援などに取り組む委員会です。今回のシンポジウムの成果を受けて、我々は以下のような考え方に基づいて、キャリア支援活動を委員会に提案し、連合全体の取り組みとして進めたいと考えています。

- ◆ キャリア支援を行う上で“今不安定な身分にいるポスドク”が直面している問題と“数年先に不安定な職に就く博士課程学生”が直面している問題を明確に区別する必要があります。最近、博士課程学生に対するキャリア支援は大学でも行われ始めており、学生に対する支援は充実してきています。一方で、ポスドクはこのような大学のキャリア支援の構想の外に置かれる場合が多く、ポスドクへの支援が充実しているとは言えません。従って、日本地球惑星科学連合の全国組織としての利点を使いながら、ポスドクへのキャリア支援活動を行うべきだと考えます。
- ◆ 連合のキャリア支援活動の一環として、2007年度より企業への博士号取得者に関する採用アンケートを行っています。今後はこれをより発展させ、企業の採用情報をHPで公開していくべきだと考えます。
- ◆ 本シンポジウムでも明らかになりましたが、研究者側が考えている博士号取得者の能力と企業側が考えている博士号取得者の能力には大きなギャップがあります。そこで、地球惑星科学がどんな研究をしているのか、どのような人材がいるのかをもっと社会にアピールしていきたいと思えます。

- ◆ キャリア支援は、一般企業と研究者コミュニティー間の人材交流を活発にする活動です。地球惑星科学出身の方が社会の中でより活躍するようになれば、社会、地球惑星科学の双方にとって非常に有益なことです。地球惑星科学分野の博士号取得者が多様な道を選択することができ、かつサイエンスの道に来てよかったと思える環境を作るべく活動していきます。

シンポジウム風景：写真は早稲田大学政治学研究科ジャーナリズムコース田中幹人講師および早稲田大学政治学研究科科学技術ジャーナリスト養成プログラム大石かおり助手の提供による。

文責：山田 耕（早稲田大学政治学研究科）  
原 辰彦（建築研究所国際地震工学センター）

## シンポジウム風景



日本地球惑星科学連合 運営会議議長木村 学氏の挨拶



日本物理学会栗本猛氏講演



日本化学連合并上晴夫氏講演



生物科学学会連合中野明彦氏講演



日本地球惑星科学連合高橋幸弘氏講演





シンポジウム風景(左から、原辰彦氏、栗本猛氏、井上晴夫氏、中野明彦氏、高橋幸弘氏)

